

教える授業から学ぶ授業への改革と 活動参加型教員研修の開発

NPO法人学習開発研究所代表 西之園晴夫

1 NPOによる教員研修

教員研修は学校教育にとって極めて重要な活動であり、これまでも日常的に行われてきた。かつては伝達講習というタイプが中心であったが、この方式はしだいに機能しなくなり、教師の創意工夫に期待した研修が行われるよう改善された。平成23年1月31日に公表された中央教育審議会「教員の資質能力向上特別部会」の審議過程報告では、教員自身が主体的に、チームとして問題解決に取り組むことが期待され、知識基盤社会に対応できる子どもの育成のための教員研修が求められている。研修の実施についても、大学や民間企業と並んでNPO（特定非営利活動法人）の役割が期待されている。

は、それぞれの専門分野に応じた活動をしているので、今後はますますその活動範囲を広げるだろう。筆者が代表を務めるNPO学習開発研究所は、平成21・22年度に京都市教育委員会と連携して「協調自律学習」型の研修プログラムを企画した。筆者は京都大学工業教員養成所を皮切りに京都教育大学、鳴門教育大学、兵庫教育大学大学院、佛教大学などで教育方法、教育技術を担当し、授業研究、教材開発などを専門に研究してきた。さらに当研究所員の望月も佛教大学で教育方法、京都ノートルダム女子大学で教師論の非常勤講師を務めている。

2 活動参加型の教員研修

教員に高い資質が望まれるようになっていく背景の一つに、児童生徒の学習や家庭における課題が複雑・多様化していて、これまでの決まり切った方法では対応できなくなってきたことがある。さらに複雑な授業の問題は特定の教育方法だけで解決できるのではなく、しっかりとした教育技術を身につけることの必要性が高まっている。教育技術とは、児童生徒や授業の実態に応じて適切に判断し、行動をしていく能力のことである。学校では個人の教育技術だけではなく、組織の教育技術として発展する必要に迫られている。このことは他の分野では当たり前のことであって、それが専門職あるいはプロ集団と呼ばれるものである。医師の世界ではお互いの専門分野を担当し経験を記号や文章にして交流するシステムがある。どの分野の専門家も自分の技術には自信をもっていて、それをお互いに誇りをもって交流し

ている。

以上のような状況を考え、京都市立中学校の初任者研修と2・3年研修は、教職プロとしての自信をもち、お互いの教育技術を交流できるようにすることを重視した設計になっている。研修として理解してほしい知識や考え方をまとめた学習テキストと、チームで活動するための学習ガイドブックで構成されている。

授業の現状を改善するのであれば、PDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルが有効であるが、将来の展望から改革するのであれば、現状とは異なる視点をもつ必要がある。初任者研修のテーマを「変動社会に生きる生徒のための授業設計と評価」とし、2・3年研修では「知識基盤社会に生きる生徒のための授業設計と評価」とした。現在は情報社会であるとともに変動社会とも呼ばれているが、さらに生徒が生きるのは知識基盤社会と呼ばれる社会が予測されている。それは知識が

経済価値をもっていることを意味している。知的財産が重要であると考えられており、今回の特別部会の報告においてもその重要性が指摘されている。ところがまだ十分に実現していない社会を想像することは困難であるから、他のものに例えるメタファーあるいはイメージで表現しその実現を目指す必要がある。

3 京都市の5か年計画

以上のような社会情勢と、今後10年間に教師の半数が世代交代することが予測されているが、それに対応するためには従来の校内研修などによつて人から人への技術伝達では不十分であり、さらに一歩進めて教育技術を改善あるいは改革するための教育技術が望まれている。教えるための教育技術だけでなく、その技術を改善したり、さらには新しい授業に改革したりするための技術である。

職人は一生を掛けて自分の技術を習得し磨いている。しかし職人技の

限界は、新しい事態に直面したときにその変化に対応できないことである。教育の世界は今なおそのような職人的な状況を色濃く残っていて、変動社会さらには知識基盤社会にあわしい知識と技術を組織として吸収できるような態勢になっていない。そのために教師は必要以上の忙しさに振り回されて専門性の低い職種にとどまっている。このような事態に対処するために、京都市では教員研修の5か年計画を立案して、その実施に向けた取り組みをしている。この計画に基づいて、平成20年から初任者研修を抜本的に改革し、平成21年から2・3年目研修の新しいプログラムを開発して、150名規模の研修を実施している。その概要は次に示す。

- ① 初任者研修：指導主事訪問研修、指導案作成演習、師範授業研修、授業設計演習
- ② 2・3年目教員研修：チーム単位授業研修
- ③ 4年目教員研修：校内授業発表

④ 5年目教員研修：チームサポート研修
以上のような5か年計画として進められている。すでに平成20年度から新しい研修プログラムとして開始されたが、平成22年度では2・3年目教員研修までが実施された。その内容を次ページの表と以下に紹介する。

(1) 初任者研修

初任者研修では、全員が活動を通して参加するようにデザインされている。第1日目ですべて参加者がお互いに理解し合うように、アイスブレイキングにじっくりと時間をかけるとともに、あらかじめ準備してきた「指導困難な生徒の指導」について具体的な生徒(匿名)の男女各一名について自分が当面している課題と考えを紹介する。初日はこのように参加者がお互いに共通する問題にじっくりと取り組むことによつて、自分の考えと異なった考え方があり、ということを知り、そのような状況

